

電 車

動物応用科学科3年 藤本彩乃

私は電車が苦手である。正確に言うと、人がたくさん乗っている電車が苦手である。満員電車で、座れずに長時間乗っていると、本当に気持ち悪くなる。耐えられなくなり、途中の駅で降りて休んだことは何度もあるし、電車の中で気を失いかけたこともある。

関東に出てきて3年が経ち、だいぶ電車にも慣れてきたと思っていたが、つい先日も気持ち悪くなった。「電車で酔うなんて。」と言われることがあるが、ほとんど電車を利用する習慣のない土地で育った田舎者の私としては、あの朝のラッシュ時の満員電車を前にして、何ともない方が変だ。

たくさん人間が、動く箱に乗り込んで、降りて、階段を上って、改札を出ていく。しかも、一斉に、一様に。それでも、乗っている人たちは、当然のことながら、それぞれが違う人間で、考えていることもさまざまだ。眠い、遅刻する、忙しい、面倒くさい、今日は早く帰ろう。たくさん気持ちが1つの小

さな箱の中で蠢いている。

それに気がついてしまうと、自分が乗っている電車が、とても得体の知れないものになり、いつか自分が押しつぶされるような感覚に陥る。

おそらく、私は考え過ぎなのだと思う。だから、電車の中で気持ち悪くなるのだ。

しかし、電車にあんなにたくさんの方が乗るのはやっぱり不思議な光景だ。都会で育った人は、電車に人が多いことに違和感を覚えならしい。全く知らない人間とぎゅうぎゅう押し合いながら、電車に揺られていても、それが当然だから平気なのだ。

私は、電車に人が多いことが当然だという感覚が掴めないので、もうしばらく、電車は苦手なままだろう。